

報道関係者各位

6月7日は「緑内障を考える日」
「緑内障に関する意識調査」結果発表「日本の失明原因第一位は緑内障」約8割が知らず
緑内障発見のきっかけ 自覚症状はわずか2割

日本アルコン株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:ジム・マーフィー)は、6月7日の「緑内障を考える日」を前に、緑内障に関する意識調査を実施しました。今回の調査は、全国の40歳以上の男女計360人を対象に、「一般層」、「緑内障の疑いがある層」、「緑内障患者層」の各グループの、本疾患に関する“知識”、“受診行動”、“治療”の実態を調査したものです。

緑内障は現在、日本での中途失明原因の第1位^(注1)であり、40歳以上の20人に1人の割合で発症しています^(注2)。しかしながら、今回の調査では、「緑内障が日本での失明原因の第一位である」という事実を、一般層の約8割(79.2%)が知らないという事実が浮き彫りになりました。

また、緑内障について「まったく知らなかった」または「名前のみ知っていた」と回答した一般層は約4割(39.2%)に達し、本疾患に関する理解度を尋ねる質問においても「点眼治療は、一生継続する必要がある」(13.3%)、「日本人は、眼圧が正常でも緑内障になる人が多い」(9.2%)と一般層における緑内障に対する関心の低さがうかがえ、本疾患に対するさらなる理解促進の必要性があらわになりました。

また、現在緑内障と診断され治療を受けている患者のうち、自覚症状があっても能動的に眼科を受診した人はわずか2割。緑内障診断の主なきっかけは「定期健康診断」(50.8%)、「別の目の病気で通院していた」(17.5%)であり、自分では自覚しづらい疾患であることから、定期検診や眼科受診が緑内障の早期発見に重要な役割を果たしていることが分かります。

今回の意識調査を踏まえ、6月7日の緑内障を考える日を前に、日本アルコンでは緑内障に関するより詳細を企業ホームページ上で公開しています。

<http://www.alcon.co.jp/eye-health/eye-care-glaucoma.aspx>

【調査概要】

□調査時期:2015年5月16日(土)~17日(日)

□調査方法:インターネット調査

□調査対象:全国の40歳以上70歳未満の男女360名

内訳 ・一般層(緑内障と診断されたことも緑内障疑いを指摘されたことも無い人)120名
(40-49歳、50-59歳、60-69歳 各40名)

・緑内障疑い(緑内障と診断、あるいは疑いを指摘されたことがあるが、現在未治療の人)120名
(40-49歳、50-59歳、60-69歳 各40名)

・緑内障患者(緑内障と診断され、現在治療中の人)120名
(40-49歳、50-59歳、60-69歳 各40名)

【注釈】

1. 出典:厚生労働省平成17年度研究報告書

2. 出典:日本緑内障学会・多治見スタディによる調査

【調査結果サマリー】

～緑内障に関する知識～

＜一般層の約8割は緑内障が失明原因第一位であることを知らず。緑内障に関する知識は乏しい結果に＞

「日本において緑内障が病気による失明原因第一位である」ことを知らない一般層は約8割(79.2%)。「視神経が傷つき、細くなっていく病気」(6.7%)、「眼圧が正常でも緑内障になること」(9.2%)、「点眼治療は、一生継続する必要がある」(13.3%)、など、一般層の緑内障に対する理解度の低さが目立つ結果になった。【図1】

緑内障について「まったく知らなかった」または「名前のみ知っていた」と回答した一般層も約4割(39.2%)

緑内障を確定するために必要な“眼底検査“や”眼圧検査“に関しては、一般層の半数以上が受けているが、検査の目的を理解していない人が65%以上に達する。【図2】

～眼科受診の現状～

＜緑内障発見のきっかけ 自覚症状はわずか2割＞

「緑内障と診断されたきっかけ」は、定期健康診断が約半数を占めており、定期健康診断の有用性を改めて認識する結果となった。また、自覚症状がきっかけで、緑内障診断に至った人はわずか2割であり、自分では気づきにくい疾患であることが示された。【図3】

～緑内障治療・点眼に関する現状(患者のみ)～

＜アドヒアランス(医師の指導下での治療の継続)が高い人ほど、生活のリズムの中に取り入れる等、何らかの工夫や努力＞

毎日の点眼継続ができている人(73.3%)は、できていない人に比べ、生活リズムの中に取り入れる(67.0%)、点眼薬の置き場所を決めておく(58.0%)など、何らかの工夫をしている人が多い。【図4】

＜毎日の点眼ができていない人は、「うっかり忘れ」が68.8%＞

毎日の点眼ができていない人は、点眼を継続できない理由として「ついうっかり忘れてしまう」(68.8%)、「毎日の点眼が面倒」(34.4%)が上位に。【図5】

＜「失明する可能性があること」について6割の人がいつも不安。7割弱が「毎日の点眼は重要とはいえ、面倒」と回答＞

「失明する可能性があることについて、いつも不安」と感じている緑内障患者の割合は62.5%。毎日の点眼が重要と理解しているものの、「点眼は面倒」だと思ふ人が66.6%にもものぼった。【図6】

～緑内障の専門医、福島アイクリニック 院長 桑山泰明 先生のコメント～

「緑内障は、視神経が傷み視野が狭くなっていく病気です。視神経はおよそ 100 万本の細い神経線維でできていますが、その数が減るにつれて見えない部分が広がっていきます。初期は自覚症状に乏しくなかなか気づかないことが多いため、受診が遅れ、症状が進んでしまうことがよくあります。実際、緑内障患者さんのうち、治療を受けている人は 1 割程度といわれ、残りの 9 割の人は緑内障が未発見のまま放置されている潜在患者さんです。

緑内障には、眼圧が高い緑内障も眼圧が低い緑内障もあります。

日本人の緑内障の約 75%は正常眼圧緑内障とよばれる眼圧が正常範囲内の緑内障で、視神経に原因があると考えられています。したがって、眼圧だけで緑内障の判断はできません。緑内障の診断には、眼底検査で視神経の状態を直接確認し、確定のために視野検査とよばれる、鮮明に見える範囲を調べる検査を行います。

緑内障は、初期段階では、鮮明に見えない範囲は狭いので、日常生活での支障はほとんどありません。また、早い段階から治療を開始し継続すれば進行を抑えることができるため、早期発見のために 40 歳以降は定期的に継続して目の検査を受けることが重要です。そして、緑内障と診断されたら、失明を防ぐための点眼の継続が重要です。毎日の点眼を継続させるための工夫や、定期的な眼科受診が視野障害の進行を抑えるカギとなります。」



1978年	和歌山県立医科大学 卒業
1983年	米国ペンシルバニア大学 シェイェ眼研究所
1988年	大阪大学医学部 講師
1992年	大阪厚生年金病院眼科 部長
2000年	愛媛大学医学部 非常勤講師 現在に至る
2003年	北海道大学医学部 非常勤講師 現在に至る
2005年	大阪大学医学部 臨床教授 現在に至る
2010年	福島アイクリニック 院長

緑内障について

目の中は「房水」という透明な血液が循環することで栄養され、かつ、ほぼ一定の圧力が保たれて正常な眼球の形が維持されています。この圧力を「眼圧」といいます。

緑内障は、視神経に障害が起こり、視野(見える範囲)が狭くなっていく病気です。視神経に原因がある場合も、眼圧が高くなりすぎることが原因である場合もありますが、いずれの場合でも眼圧を下げることで視野障害の進行を押さえる有効な治療法であることが明らかになっています。

一般的な緑内障は、中心以外の視野から欠けていくため、初期の段階では病気に気がつく人はほとんどいません。かなり病気が進行しているのに症状に気がつかないこともよくあります。何も治療をしないでいると、さらに視野が狭くなって日常生活に支障をきたします。

日本では 40 歳以上の約 5%、つまり 20 人に 1 人が罹患し、その約 90%が潜在患者であると報告されており^(注3)、中途失明原因の第 1 位となっています^(注4)。

【注釈】

3. 出典: 緑内障診療ガイドライン(第 3 版) 4. 出典: 日本眼科啓発会議ホームページ

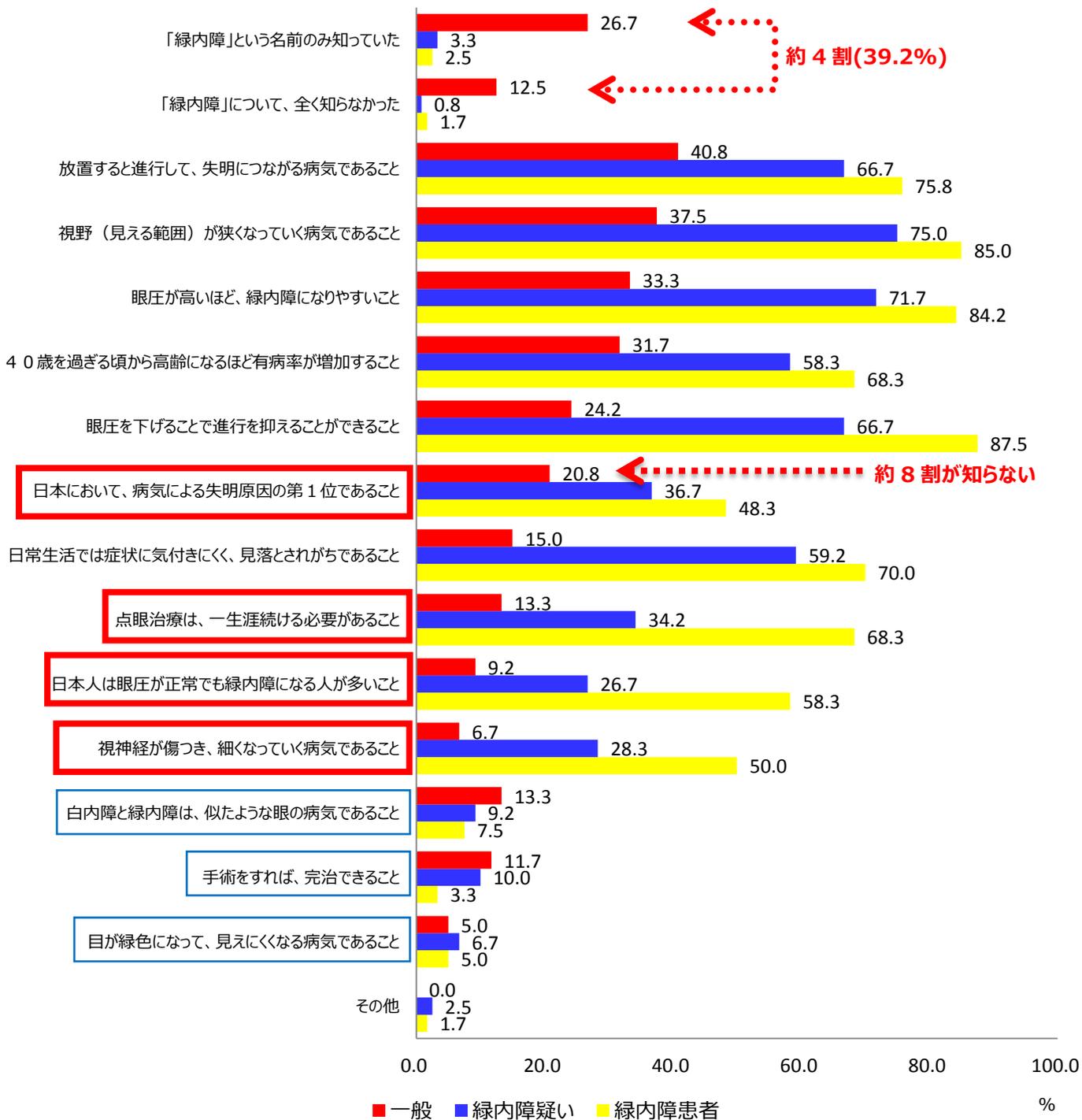
《詳細データの抜粋》

～緑内障に関する知識～

《健常者の約 8 割は緑内障が失明原因第一位であることを知らず。緑内障に関する知識は乏しい結果》

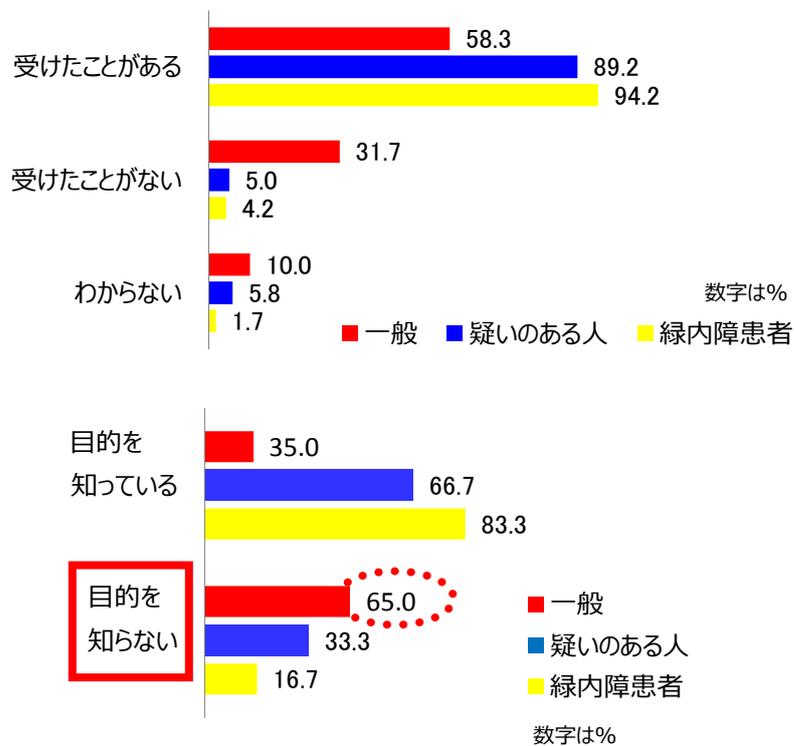
Q あなたが緑内障について知っていることを全てお選びください。(n=全体 360)

【図 1】



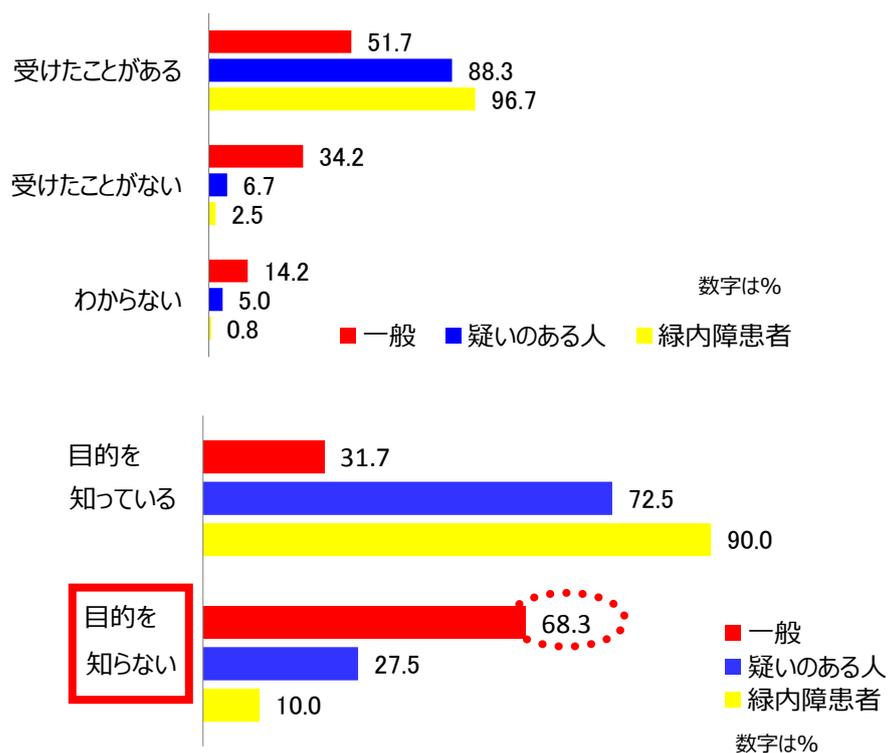
Q あなたは、健康診断などで眼底検査(がんていけんさ)を受けたことがありますか？
また、その目的を知っていますか？(n=全体 360)

【図 2-1】眼底検査



Q あなたは、健康診断などで眼圧検査(がんあつけんさ)を受けたことがありますか？
また、その目的を知っていますか？(n=全体 360)

【図 2-2】眼圧検査

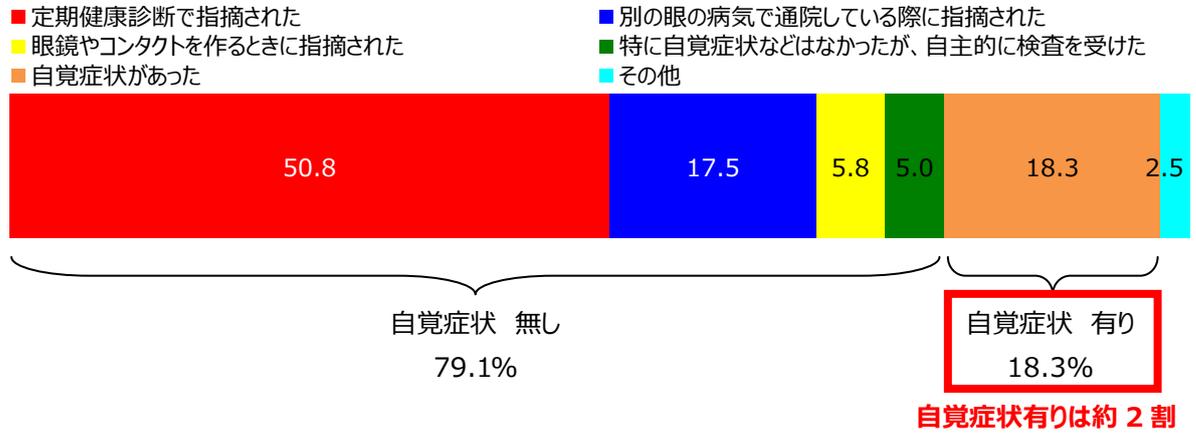


～眼科受診の現状～

《約 8 割は自覚症状なく、緑内障を発見》

Q 緑内障と診断されたきっかけは何でしたか？(n=患者 120)

【図 3】



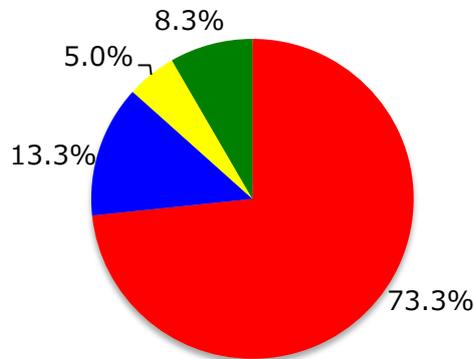
～緑内障治療・点眼に関する現状(患者のみ)～

《アドヒアランス(医師の指導下での治療の継続)が高い人ほど、生活のリズムの中に取り入れる等、何らかの工夫や努力》

Q 点眼薬治療を継続するために工夫していることがあればお知らせください。(n=患者 120)

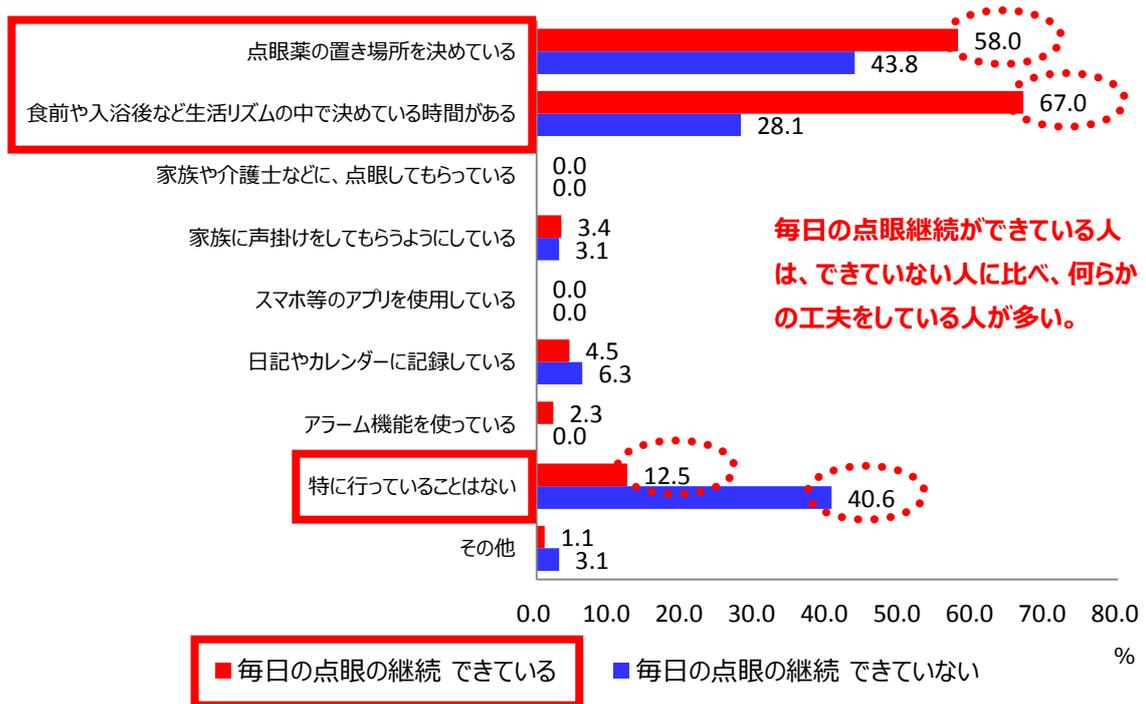
【図 4-1】

- 毎日継続してできている (点眼しない日はほぼない)
- 概ねできている (時々しない日がある)
- あまりできていない (点眼する日としない日が半数ずつ、またはそれ以下)
- 全くできていない (現在点眼をやめてしまっている)



毎日の点眼継続ができている人は、73.3%

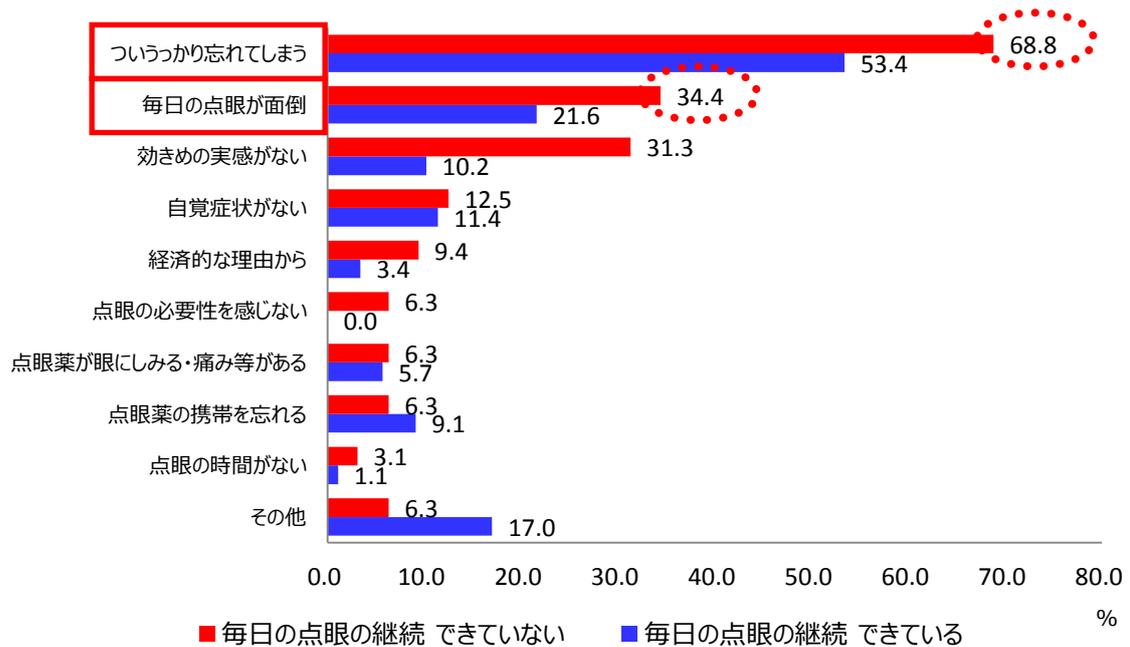
【図 4-2】



《毎日の点眼ができていない人は、「うっかり忘れ」が 68.8%》

Q 点眼を継続できない理由として当てはまるものをお答えください。(n=患者 120)

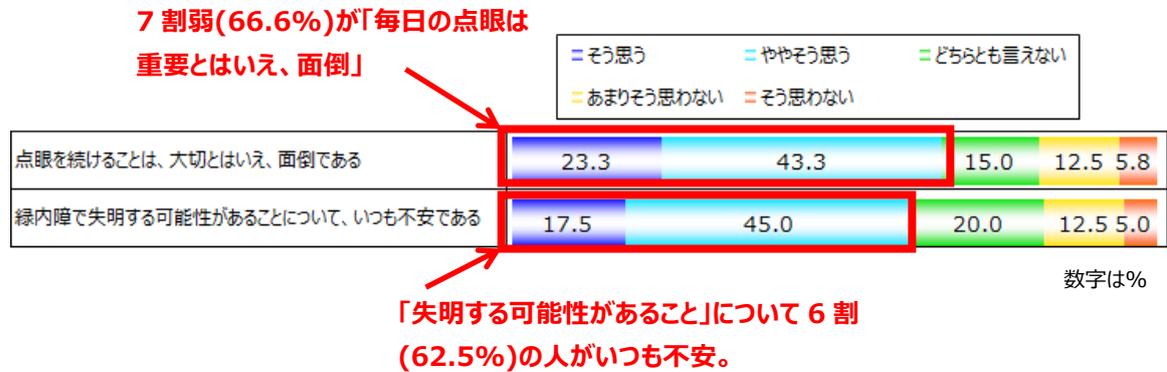
【図 5】



«「失明する可能性があること」について 6 割の人がいつも不安。7 割弱が「毎日の点眼は重要とはいえ、面倒」と回答»

Q 緑内障に関して、あなたのお気持ちに近いものをそれぞれお選びください。
(n=患者 120)

【図 6】



About Alcon: 日本アルコン株式会社は、ノバルティスグループのアイケア事業部門を担うアルコンの日本法人です。アイケアにおけるリーディングカンパニーとして、サージカル製品から医薬品、ビジョンケア製品に至るまで、アイケア領域における幅広い製品を提供しています。世界に 25,000 人のスタッフを有するアルコンは、米国テキサス州フォートワースに本拠を置き、世界 75 カ国で事業を展開、180 カ国の市場へ製品を提供しています。アイケアにおけるグローバルリーダーとして、よりよい視界の提供を通じて、人々の生活の改善に寄与することを使命としています。2014 年度、アルコンの世界における売上高はおよそ 108 億米ドルでした。詳細は www.alcon.com をご覧ください